

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
国語	国語総合	国語総合	3	1	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
大修館「国語総合 改訂版」	浜島書店「最新国語便覧」 京都書房「書いて覚える漢字練習ノート」

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	・随想を教材とし、筆者の考えを的確に読み取り、感動する心を養い、感受性を高める。	9	・「センス・オブ・ワンダー」を心に持つことの大切さを理解する。 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読み、筆者の意図をとらえる。
	5	・平易な古文に接することで、古典作品に親しみをもち向き合う姿勢を作る。 ・音読を通して、古文の独特のリズムを感じ取り、古文に対する理解を深める。	12	・歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文のリズムを身につける。 ・文語の決まりを理解し、文章の内容を把握し、文脈の流れに沿って読み進める姿勢を養う。
	6	・少年を主人公とした小説を教材とし、登場人物の心情を読み取り、小説を読む楽しさを知り、文学作品を進んで読む態度を養う。	15	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・場面ごとの主人公の心情について考える。
	7	・読書に興味を持ち、さまざまな本を読もうとする意欲を引き出す。	3	・自分の選んだ本について、表現の効果を工夫しながら、紹介文を書くことができる。
二学期	9	・具体的な例から抽象的な見解へと論を進める評論文を読み、筆者の主張を読み取り、考え方を理解する。	15	・論理の展開をつかみ、日本文化の特色や東西の文化の違いについて興味を持って読み進める。 ・序論・本論・結論の3部構成であることを理解する。
	10	・古文の随想を教材とし、自然や人間に対する作者の見方、感じ方、考え方を理解する。 ・古典文法の基礎について理解を深める。	15	・文章に描かれた人物、情景、心情などを読み取り、平安時代の人々の生活やものの見方考え方について関心を持つ。 ・動詞の活用など古典文法の基礎について理解を深める。
	11	・漢字の特色について論じた評論文を読み、日本と外国の文化との関係に気づき、伝統的な言語文化への興味関心を広げる。	12	・漢字の特色及び日本語における漢字の働きを知るとともに、漢字を身につけることの大切さを理解する。 ・筆者の考えを的確に読み取り、感想をまとめて表現することができる。
	12	・古典詩歌を音読し、韻律や内容を理解する。 ・和歌・俳句の歴史を学習したり百人一首かるたをしたりすることで、日本の伝統文化に親しむ。	3	・百人一首を音読し、詠まれている心情や情景を想像して味わい、鑑賞する。 ・和歌や俳句など日本の伝統文化を知り、鑑賞・創作する。
三学期	1	・漢文の訓読の決まりや格言を通して、漢文に親しみ、漢文を学ぶ意義を理解する。	9	・訓読の決まりを理解し、音読し、漢文に興味を持つ。 ・返り点や送り仮名に留意して短い漢文を読むことができる。
	2	・故事成語を教材として、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。	9	・漢文の訓読法に従って故事成語を音読し、漢文に親しむ。 ・故事成語の意味や使われ方を知り、現代との関わりに興味関心を持つことができる。
	3	・随想を教材とし、筆者の主張を読み取り、感受性を豊かにし感動する心の大切さを理解する。	3	・「作品からメッセージを受けとる」ことの大切さを理解する。 ・日常の中からメッセージ探しを行い、文章化し発表することができる。

評価の観点・方法

105

日々の授業や課題への取り組み、定期考査などを総合して判断する。

①定期考査で習熟度を計る。(知識・理解・思考力)

②ノートや課題の提出により、取り組む姿勢を評価する。(関心・意欲・態度)

③発表や質問に対する解答から思考力・理解力を観察する。(見方・考え方、技能、知識・理解)

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
国語	国語総合	国語総合	3	2学年	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
大修館「国語総合 改訂版」	東京書籍「新総合図説国語」 京都書房「書いて覚える漢字練習ノート」

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	漢詩(漢文)『春眠暁を覚えず』 漢詩の特質を理解して鑑賞し、漢詩についての興味・関心を広げる。	9	・唐代の詩を繰り返し音読し、漢文特有の口調に習熟する。 ・唐代の詩の名作に親しみ、作者の心情や描かれた情景を想像し味わう。
	5	評論(現代文)『食えることと生きることの意味』 論理の展開に則して筆者の主張を読み取り、生命に対する認識を深める。	12	・筆者の考えを、叙述に即して的確に読み取り、自然に対する関心を広げる。 ・論理の展開をたどり、筆者の主張を読み取り、生命についての理解を深める。
	6	小説(現代文)『羅生門』 小説に親しみ、場面や心情の変化を表現に即して読み味わう。 随想(古文)『徒然草』『奥山に猫またといふもの』 人間に対する作者の見方、感じ方、考え方を理解する。	15	・登場人物の行動や情景描写等から、心情の変化などを読み取ることができる。 ・歴史的仮名遣いを理解し、古文を正しく音読することができる。 ・人間に対する作者の見方、感じ方、考え方を理解する。
	7	作文 原稿用紙の使い方を理解する。 自分の考えを明確にする。	3	・原稿用紙の使い方を理解し、適切な表現ができる。 ・自分の考えを持ち、明確にすることができる。
二学期	9	小説(現代文)『鏡』 ・現代小説に親しみ、場面や心情の変化を表現に即して読み味わう。	15	・読んだ文章を評価することを通して、自分とは異なるものの見方、感じ方、考え方に気付く。
	10	物語(古文)『伊勢物語』『芥川』 ・登場人物の性格や心理の動きを読み取る。 ・現代とは異なる恋愛の過程や、当時の結婚制度についての理解と認識を深める。	15	・歴史的仮名遣いを理解し、古文を正しく音読することができる。 ・古典知識について理解することができる。 ・人物、情景、出来事を読み取り、和歌に込められた登場人物の心情を理解することができる。
	11	評論(現代文)『心が生まれた惑星』 ・叙述に即して文章の内容を的確に読み取り、人間の心についての理解を深める。	12	・筆者が提起した問題と、それに対する結論を読み取っている。 ・筆者が提示している具体例と、その例の果たしている役割を読み取っている。
	12	俳句(現代文) ・作品を味わい、人生や自然に対する見方、感じ方、考え方を深める。 百人一首	3	・季語等の効果的な使い方を意識して、俳句を読むことができる。 ・オリンピック・パラリンピック開催を控え、和歌や俳句など日本の伝統文化を知る。 ・日本の古典に興味を広げることができる。
三学期	1	孔子のこぼ(漢文)『論語』 ・孔子の学問や人の生き方に対する考え方を理解する。	9	・訓点や置き字、再読文字、句法について理解し、訓読したり書き下し文にすることができる。 ・孔子の人の生き方に対する考え方を学び、その現代的意義を考えようとしている。
	2	評論(現代文)『何のために働くのか』 ・筆者の考えを叙述に即して的確に読み取り、働くことについての理解を深める。	9	・文章の内容を、描かれている場面や文脈から考え、読み取ることができる。 ・登場人物の心情に思いをはせ、鑑賞文を書くことができる。 ・基本的な古典知識を知る。
	3	小論文 ・何のために働くのかという問いに対する自分なりの考えを持ち、文章にまとめる。	3	・自分の考えをまとめ、文章にまとめることができる。 ・文章の形態や文体、語句などを工夫して書くことができる。

評価の観点・方法

105

日々の授業や課題への取り組み、定期考査などを総合して判断する。

①定期考査で習熟度を計る。(知識・理解・思考力)

②ノートや課題の提出により、取り組む姿勢を評価する。(関心・意欲・態度)

③発表や質問に対する解答から思考力・理解力を観察する。(見方・考え方、技能、知識・理解)

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
国語	現代文A	現代文A	3	3学年	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
東京書籍 現代文A	新総合図説国語(東京書籍) 書いて覚える漢字練習ノート(京都書房)

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	・評論を教材とし、根拠と意見の関係を明確にして、筆者の主張を理解し、芸術の見方について考えを深める。 ・短編小説を読み、登場人物の心情を読み取る。	10	・文章を通して芸術に対する見方や考え方を主体的に学びとろうという態度を育てる。 ・文章に表れた作者独特の視点や表現の特徴に着目し、自分の物の見方や考え方を豊かにする。
	5	・近代を代表する小説を読み、長文教材のあらすじを正確に理解し、登場人物の心理を分析しながら主題を把握する。	14	・小説を読むことを通して、自分とは何か、人間とは何かについて考えを深める。 ・優れた小説が、構成の面と表現の面でどのように工夫されているのかを学ぶ。
	6	・近代を代表する小説を読み、長文教材のあらすじを正確に理解し、登場人物の心理を分析しながら主題を把握する。 ・評論を教材とし、論の展開に注意して読み、現代社会の課題について理解を深める。	17	・人間の持つエゴイズムに注目し、登場人物の心情を理解し、互いに話し合うことで作品に対する理解を深める。 ・筆者の主張を的確に読み取り、現代の社会や環境について考えを深める。
	7	・相手や目的に応じて適切な題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書く。	4	・進路に応じて、履歴書や志望動機などを適切な表現で具体的に書くことができる。
二学期	9	・評論文を教材とし、筆者の表現や具体例の働きに注意して読み、論理的な文章を読解する力を養う。日常の口語とは異なる様々な語彙に触れ、語彙力を身につける。	17	・文章に表れた筆者のものの見方や考え方を正確に読み取り、現代における社会課題について考えを深めていく。
	10	・中国の古典を素材とした小説を読み、小説の主題を理解すると同時に、日本文学と中国文学との深い関わりについて関心を持つ。	17	・小説を読むことを通して、自分とは何か、人間とは何かについて考えを深める。 ・優れた小説が、構成の面と表現の面でどのように工夫されているのかを学ぶ。
	11	・中国の古典を素材とした小説を読み、小説の主題を理解すると同時に、日本文学と中国文学との深い関わりについて関心を持つ。 ・短編小説を読み、筆者の意図を読み取り、その表現力を鑑賞する。	14	・漢文の影響を受けた簡潔な文章を音読することによって、内容を理解するだけでなく格調高い文体の魅力を味わう。 ・文中に描かれている、「芸術至上主義」や「自我意識」について調べ、考えを深める。
	12	・評論文を読み、論理的な文章の読解する力と語彙力を養う。社会に関心を持ち、社会課題を考える。	4	・評論文の読み方に慣れ、抽象的な問題について論理的に考える力を養う。 ・社会課題を自分の問題としてとらえる姿勢を養う。
三学期	1	・伝統文化への関心を高めるために詩歌を教材とし、日本の伝統的な短歌や俳句のリズムやイメージを味わい、作者の心情を読み取り、定型詩である俳句を作る。	7	・日本独特の表現形式について理解を深め、作者の心情を読み取る。 ・自らの思いを、短歌や俳句という形式で表現する姿勢を養う。
	2		1	
	3		0	

評価の観点・方法

105

日々の授業や課題への取り組み、定期考査などを総合し評価する。

①定期考査で習熟度を図る(知識・理解・思考力)

②ノートや課題を提出により取り組む姿勢を見る(関心・意欲・態度)

③発表や質問の解答から思考力・論理力を観察する(見方・考え方、技能、知識・理解)

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
国語	国語表現	国語表現(進学)	2	3学年	自由選択

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
国語表現(大修館)	

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	①整った文章を書く。 ②原稿用紙の使い方、表記方法の基礎を身につける。 ③現代社会の問題について関心を持つ。 ④新聞記事を読み、読解する。	6	・文体を統一し、係り受けの正しい文章が書ける。 ・原稿用紙の正しい使い方を身につけ、縦書きで文章が書ける。 ・新聞記事の利用の仕方を身につける。
	5	◎小論文の書き方を学ぶ。 ①小論文の型を理解する。 ②構成の仕方を身につける。 ③現代社会の問題について関心を深める。新聞を活用する。	10	・小論文の書き方にはいくつかの型があることを知る。 ・小論文を書くための構成メモの作成方法を身につける。
	6	①課題文や資料を読み取って小論文を書く。 ②テーマに即して小論文を書く。	10	・文章を読み、要約したり要旨をまとめたりする力を養い、自らの意見を書くことができる。 ・マッピングメモなどの方法を身につけ、発想力を養い、意見を書くことができる。
	7	①志望理由を書く。	4	・これまで学んだことを生かして、志望理由を書くことができる。
二学期	9	◎自分を見つめ表現する力を養う。 ①面接練習をする。 ②スピーチをする。	10	・面接試験に向けて自己PRができるように、自己分析をし、適切に表現できる力を養う。 ・言葉遣いや立ち居振る舞いを意識できる。
	10	◎過去の入試小論文のテーマで小論文を書く。 ①各自の進路に応じて、ふさわしいテーマを選び、小論文を書く。	10	・自らの進路に関連する様々な情報の中から課題やテーマを選び、適切な具体例や根拠を示しながら意見を述べることができる。
	11	◎志望分野に関する書籍を読み、紹介する。 ①適切な新書を選び、内容を要領よくまとめる。 ②プレゼンテーションの工夫をする。	10	・適切な選書をし、内容を理解し、要旨をまとめ、他者に紹介するための工夫ができる。
	12	◎オリンピックパラリンピックの意義を考える。 ①相互に意見交換をする ②作文・小論文を書く。	2	・オリンピックパラリンピックに関する情報をもとに、自分なりに考え、意見を発表することができる。
三学期	1	◎卒業小論文制作をする。	6	・高校で学んできた専門分野または卒業後の志望分野に関連するテーマを選び、各自の選んだ表現方法で卒業制作をすることができる。
	2	◎卒業論文制作をする。	2	・高校で学んできた専門分野または卒業後の志望分野に関連するテーマを選び、各自の選んだ表現方法で卒業制作をすることができる。
	3		0	

評価の観点・方法

70

日々の授業や課題への取り組み、提出物や発表の内容などを総合して評価する。

- ①毎時間の授業課題の提出状況と授業に対する取り組み方を評価する。(関心・意欲・態度)
②提出した課題によって思考力、文章力、表現力などを評価する。(見方・考え方、技能・知識・理解)